

平成28年7月 教育委員会会議録（要旨）【7月15日（金）】

<p>〔開会の宣告〕 岡教育長</p>	<p>平成28年7月定例教育委員会会議を開会する。</p>
<p>〔会議の成立〕 岡教育長</p>	<p>本日は、私の他5人の委員が出席しているので、この会議は成立する。 会議録署名人は、泉委員と私とする。</p>
<p>〔公開の審議〕 岡教育長</p>	<p>本日の会議日程について、議第44号および46号については、「議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること」に該当することから、会議規則第13条に基づき非公開の審議が適当と考えるが、意見を伺いたい。</p>
<p>岡教育長</p>	<p>採決する。議第44号、46号について、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いする。 (全員挙手)</p>
<p>岡教育長</p>	<p>全員賛成により、議第44号、46号については、非公開とする。</p>
<p>日程第1 前回会議録承認</p>	
<p>岡教育長</p>	<p>6月16日開催の平成28年6月定例教育委員会会議録を承認することに異議があるか。 (異議なしの声)</p>
<p>岡教育長</p>	<p>異議なしと認め、前回会議録を承認する。</p>
<p>日程第2 事務局報告</p>	
<p>〔1〕事業・行事等報告について</p>	
<p>○ 前回会議（H28.6.16）以降の事業・行事報告（主なもの）</p>	
<p>6月17日（金） 20日（月）</p>	<p>熊本地震からの復旧・復興に関する調査特別委員会 熊本市私立幼稚園協会情報交換会</p>

平成28年7月 教育委員会会議録（要旨）【7月15日（金）】

30日（木）	熊本地震からの復旧・復興に関する調査特別委員会
7月 8日（金）	教師塾「きらり」開講式
11日（月）	校長・園長会
14日（木）	熊本地震からの復旧・復興に関する調査特別委員会
15日（金）	平成28年度熊本市地区学校等警察連絡協議会全体会
○ 今後の予定（主なもの）	
7月17日（日）	平成29年度熊本市立学校教員採用選考試験
23日（土）	平成28年度熊本県中学校総合体育大会総合開会式
29日（金）	熊本県国公立幼稚園研究大会
8月 6日（土）	全国国公立幼稚園・子ども園PTA全国大会
7日（日）	第60回九州ブロック学校保健・学校医大会総会
8日（月）	平成28年度第1回総合教育会議
日程第3 議 事	
・議第45号 熊本市野外教育施設運営協議会委員の委嘱について	
《上原青少年教育課長 提出理由説明》	
〔採決〕 【原案どおり承認された】	
日程第4 報 告	
・報告（1） 平成28年度「全国標準学力検査（NRT）」実施（中学校）の概要について	
《竹下指導課長 報告》	
田口委員	3年生の学力が非常に上向きになっているが、例年このような傾向か。
竹下指導課長	例年、中学校2年生の結果、つまり中学校1年生の学習内容で若干下降し、中学校3年生の結果、つまり中学校2年生の学習内容で上昇する傾向がある。
出川委員	この学力検査の結果は各教員の今後の指導に役立てるとい

平成28年7月 教育委員会会議録（要旨）【7月15日（金）】

<p>竹下指導課長</p>	<p>説明はあったが、生徒各個人には提供しないのか。</p> <p>全国標準学力検査では、各個人というより、学級全体で教科毎の指導に役立てるといふ活用法になっている。そのようなこともあり、より生徒各個人に対して個別指導ができるよう、来年度からは新学力検査を実施していきたいと考えている。</p>
<p>田口委員</p>	<p>2年生と3年生の結果の違いは、家庭学習の時間の長さ等が要因か。何か分析を行っているか。</p>
<p>竹下指導課長</p>	<p>実際の家庭学習時間について調査分析等は行っていないが、2年生の結果が下降している原因としては、やはり「中1ギャップ」と言われる、小学校6年生から中学校1年生になった際に、学習内容が若干難しくなったり、教科の進度が速くなったり、学校生活に馴染めなかったり、といったことが考えられる。その結果、中学2年生の結果では下降気味になり、その後、学校生活にも慣れ、高校受験という目標も出来ることから、子ども達が学習に熱心に取り組むようになり、少しずつ成績が上昇していくのではないかと考えている。当然、家庭学習の時間の長さも長くなっているものと思われる。</p>
<p>崎元委員</p>	<p>この結果は、1年間のタイムラグがあると捉えてよいか。2年生の結果は1年生の学習内容の検査ということによいか。</p>
<p>竹下指導課長</p>	<p>その通りである。</p>
<p>出川委員</p>	<p>先ほどの説明では、熊本市は5段階のうち「やや高い」「高い」の分布が多いということであったが、「やや低い」「低い」の割合というのは、全国平均と比較していかがか。</p>
<p>竹下指導課長</p>	<p>「やや低い」は正規分布でいうと24%程度となる。各グラフ内に赤色で描かれている山型の点線である。例えば資料6-4頁(1)のグラフでは、本市の「やや低い」が15.5%であるから、標準分布と比べるとやや少ないと見ることになる。</p>
<p>泉委員</p>	<p>過去5年間分のデータによれば、ほとんどの教科・学年で平均偏差値52以上をキープできているようであり、安定した学力が付いてきていると判断してよいかと思う。その中で最もき</p>

<p>竹下指導課長</p>	<p>になる教科は国語である。平均偏差値52以上をうまくキープできておらず、全体的に下降気味なように見受けられるが、いかがか。</p> <p>国語については確かに、読解力も含め活用力が求められている中で、そのようなところまで授業改善が図られていない部分があると考え。8月の教育課程研究協議会等でも、この結果を伝え、授業改善を図り、子ども達に確かな学力を付けられるよう、指導してまいりたい。</p>
<p>崎元委員</p>	<p>資料6-4頁以降のグラフにある赤い点線のグラフは、正規分布のように見えるが、実際の全国平均の分布なのか。</p>
<p>竹下指導課長</p>	<p>偏差値自体が50を平均としているため、「高い」が7%、次が24%、その次が38%ということになり、偏差値自体が標準化されていることから、このような正規分布になると考えている。</p>
<p>・報告（2） <u>子どもたちの心のケアについて</u></p>	
<p>森委員</p>	<p>《橋爪総合支援課長 報告》</p> <p>そもそも、どのような形になると「カウンセリングが必要」という判定になるのか。例えば、まずアンケートを実施すると思うが、特定の項目がチェックされている、チェックされた項目数による等、カウンセリングの必要性を判断する基準があるのか。また、カウンセリングの必要が無くなったと判断される場合にも、そのような基準があるのか。その点について説明していただきたい。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>総合支援課からは17項目にわたるアンケートを準備したが、これはあくまで雛形であり、対象が小学校1年生から中学校3年生まで幅広いため、学校によっては平易な表現に書き換えたり、学校独自のものに書き換えることは構わないということで、お願いしている。</p> <p>また、アンケートを実施しながら、管理職を含めた複数体制で、カウンセリングの必要な子どもたちを上げるように依頼しているが、その際の基準等は設けていない。「ある項目にチェッ</p>

<p>森委員</p>	<p>クが入ったので、その子どもはカウンセリングが必要」とするのではなく、各学校内で協議を行い、カウンセリングが必要な子どもを挙げるように、としている。</p> <p>加えて、担任や養護教諭の観察により、カウンセリングが必要と思われる子どもについては、たとえその子がアンケートの項目に一つもチェックを入れていなかったとしても、カウンセリングの対象者として挙げるようお願いしている。</p> <p>なお、学校現場からの声としては、熊本地震に起因してカウンセリングが必要となったかどうかという区別は非常に難しいと聞いている。例えば、以前から不登校気味だった子どもの状態が厳しくなりカウンセリングを要するようになることもあり、そのような子どもも含めて、カウンセリングが必要と思われる子どもたちの人数を挙げるようお願いしている。</p> <p>ということは、数には一定の意味はあるものの、基準等によるものではないため、単純に増えた減ったという見方はできないということか。必要な子どもがカウンセリングを受けられるように、現場で先生が判断している、という風に受け止めた方がよいか。</p> <p>全体的傾向として数が多い少ないという話はあるかもしれないが、今の説明からすると、あまり数に囚われてもいけない、ということか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>全体的な傾向としては、「東区に非常に厳しい学校が多い」といったことや、「小学校の方がダメージが大きかった」ということが、この数字から読み取れると思う。細かな基準を設けると、該当しなかった子はカウンセリングが必要な子として挙げる事が出来ないのか、といったことにもなるため、基準は設けていない。</p>
<p>崎元委員</p>	<p>これには収束点のようなものはあるのか。カウンセリングは1回では済まないと思うが、個人のカルテを作成するのか。その結果、「この子にはカウンセリングは必要が無くなった」「問題が解消した」といった収束点が見えるのか。このカウンセリングが必要な児童生徒数は、いつゼロになるのか。ゼロになるまで取り組みを続けていくのか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>東日本大震災の例では、東北の子どもたちの特徴として、建</p>

	<p>物が無くなったこと、家族が亡くなったこと等により、喪失感が非常に大きかったと聞いている。熊本の場合は、余震が大きかったことから怯えが続いているという状況である。同じような前例がないため、あくまでも予測にしかならないが、緊急のカウンセラーを対象者がゼロになるまで継続して配置するというのではなく、今後は県と連携して「回復プログラム」のような、教師や養護教諭が子どもたちに対応できる資質を身につけるための準備も進め、そちらに移行していく流れを作りたいと考えている。</p> <p>2年後、3年後になってカウンセリングが必要となる子どもたちが出てくることも考えられ、対象者がゼロになることはないだろうが、長期的視点で捉えると、最終的には熊本市が雇用している臨床心理士で対応できる範囲まで収束すると考えている。</p>
<p>崎元委員</p>	<p>複数の臨床心理士や教員がカウンセリングを行っていくなれば、各個人のカルテを作成しなければ、情報がうまく伝わらないと思うが、いかがか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>現時点では可能な限り、ブロックごとに同じ県から派遣された臨床心理士で対応するように配置しており、カルテ等で情報交換を行い、交代しても情報が引き継がれるようにしているところである。</p>
<p>森委員</p>	<p>カルテはどのようにして作成するのか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>カルテは、県の臨床心理士と総合支援課で打ち合わせて作成した定型の様式を使用し、学校で保管している。</p>
<p>森委員</p>	<p>先ほどの説明では、「カウンセリングが必要」との判断は各学校において担任や養護教諭、管理職等の複数人体制で行うということだったが、どのような理由や経緯でカウンセリングが必要と判断したのかということまで記録されているのか。それともカウンセリングを始めた後の情報を臨床心理士だけが記録していくのか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>その点については、現状を確認させていただき、カウンセリングが必要と判断された理由や経緯まで記録し、きちんと引き</p>

<p>森委員</p>	<p>継ぎが行われるようにする。</p> <p>カルテを作成することで臨床心理士が携わる間は情報共有が行われると思うが、先ほどの説明によれば最終的には学校の担任や養護教諭へ引き継いでいくということであった。その最終的な引継ぎの際に、臨床心理士が行ったカウンセリングの情報のみで作成されたカルテでは、必要な情報の全てが共有できないのではないかと疑問が残る。カウンセリングが必要と判断された理由や経緯、カウンセリングの経過、最終的な担任や養護教諭の対応の記録、これらを一貫して記録することが最も良いのではないかと考える。</p>
<p>出川委員</p>	<p>カウンセリングが必要な児童生徒数と、実際にカウンセリングを受けている児童生徒数は等しいか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>第1回目の調査時にはカウンセリングが必要な児童生徒数が2,000人を超えていたが、その数に対応するための準備を行っている間に「もう大丈夫」となり、カウンセリングを受けずに養護教諭や担任への相談で終了した子どもたちもいたため、ここに人数として挙げた子どもたちが全員、臨床心理士のカウンセリングを受けた訳ではない。</p>
<p>出川委員</p>	<p>およそ何人ぐらいの児童生徒がカウンセリングを受けているか把握しているか。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>現在、集計中である。</p>
<p>泉委員</p>	<p>6月29日と7月4日に連絡会議を開催しているが、そこで話し合われた成果や課題等の意見について教えて欲しい。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>緊急の対応であったため、配置計画を周知してから実際にカウンセリングを実施するまでの期間が短かったこと、健康診断等の実施時期と重なったこと等から、準備を行うのが大変だったため、今後は先が見込めるような計画を示して欲しいとの意見があった。</p> <p>また、先ほどもお話したとおり、震災に起因してカウンセリングが必要となった子は今回の対象にし、以前から不登校気味等、不安定であった子は学校で対応、といった区別は非常に難</p>

<p>泉委員</p> <p>森委員</p>	<p>しいため、カウンセリングが必要な子どもについては、一括してカウンセリングを実施して欲しいとの意見もあった。</p> <p>このようなことから、今後はカウンセラーを派遣する直前に知らせるようなことなく、数週間前には連絡し、学校側も十分な準備が行える仕組みを整えることとしている。</p> <p>そのような事務的な連絡事項のみでなく、カウンセラーが現場で感じたことや、どのような問題が多かったかといった実際の状況等を把握できれば、今後の対応に活用できると思うため、関わっていただいたカウンセラーの意見を聴取し分析していただきたい。</p> <p>今の話は、地震が原因ではない場合も含め、カウンセリングが必要な子どもの対応に関することであるが、地震が与えた影響としては、マイナスなものばかりではなく、例えば生徒指導が非常に必要だった子どもが避難所でボランティア活動に携わることによって生き生きとしてきた、というようなプラスの話も学校現場にはある。子どもたちのケアに関する経験を情報として蓄積していくことも大事だが、併せてそのようなプラスの面についても情報を蓄積していくと良いと考える。</p>
<p>・報告（3） 学校教育コンシェルジュについて</p>	
<p>崎元委員</p> <p>橋爪総合支援課長</p> <p>泉委員</p>	<p>《橋爪総合支援課長 報告》</p> <p>コンシェルジュとはどのような立場で、どのような役割なのか。資料には「学校や家庭など現場に出向き助言等を行う」とあるが、そのような点について規則等で定めているか。</p> <p>役割としては、家庭訪問までは難しいと思うが、学校現場へ出向き、校長等へ課題解決に向けた助言を行うことや、相談のために来校された保護者と面談を行うこと等を想定している。</p> <p>コンシェルジュについては、教員の負担感軽減に関する議論の中から出てきた話であったかと記憶している。この資料には、その点について記載がないが、記載しておいた方が良いのではないか。</p>

平成28年7月 教育委員会会議録（要旨）【7月15日（金）】

橋爪総合支援課長	<p>担任の負担軽減というよりは、保護者が「どこへ相談を持ちかけてよいか分からない」ということなく、総合的に一箇所で相談を受けることが出来ることを大きな目的としている。</p>
崎元委員	<p>そのような目的を持ち、実際に相談を受けた際、どのような立場として助言等を行えるのか、説明できる根拠が示されていないと活動し難いのではないか。SSWやSCのように何か定めてあるか。</p>
岡教育長	<p>SSWやSC同様、設置要綱を定めた上で、教育委員会から委嘱しており、各学校に対してはその主旨や役割を周知している。</p>
崎元委員	<p>SSWやSCについては、どのような役割なのか、もう随分浸透していると思うが、コンシェルジュについてはホテル等で聞かれるようになった言葉を、そのまま教育現場へ持ってきたものであり、役割についてはイメージし難い状況ではないかと思う。そのため、コンシェルジュの役割を分かり易く周知するような資料が何かあった方が良いのではないか。既に現場では浸透しており、うまく運用されているならばよいが。</p>
橋爪総合支援課長	<p>保護者に対する周知としては、現在、市政だよりやホームページで行っており、今後は教育広報誌「with you」も活用していく。</p>
岡教育長	<p>学校に対しては、先般、校長・園長会で周知を行った。</p>
田口委員	<p>資料の「2 対応」という部分については、きちんと周知されているか。</p>
橋爪総合支援課長	<p>周知を行っている。</p>
出川委員	<p>先ほどの説明では、既に28件の相談があつているということだったが、最終的にはどのような形に収束していくことを想定しているか。</p>
橋爪総合支援課長	<p>まずは保護者の方がお申し出になった内容の背景まで、きちんと把握した上で、関係各課へ繋ぐ案件もあれば、SSW等と</p>

<p>崎元委員</p>	<p>共同で対応していく案件もある。一度は解決しても、再度相談があるというケースも想定され、そのような案件については長期的に関わっていくことになると考えている。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>他都市においても類似した取り組みがあったと記憶している。そこでは、学校や教育委員会事務局へ直接寄せられる相談とは、異なる内容のものが相談されるという話を聞いたことがあるが、本市ではどうか。</p> <p>例えば、高校の就学支援制度について分からないので、詳しく知りたいがどうすればよいか、といった相談や、障がいをもったお子さんを入学させるには、どのような手続をすればよいか、といった相談があっている。やはり、まずはどの課に相談すればよいか、保護者の立場からはなかなか分からないような相談が一括してコンシェルジュに寄せられている状況である。</p> <p>コンシェルジュには、各課から集めたFAQを冊子にして渡してあり、それに基づいて適切な対応が出来るよう2週間の研修を受けていただいた。</p>
<p>田口委員</p>	<p>例えば、保護者から「就学支援について教えて欲しい」という相談が寄せられた場合の対応は、「担当課へ繋ぐ」という考え方か。それとも、コンシェルジュが情報提供まで行うという考え方か。</p>
<p>橋爪総合支援課長</p>	<p>現場からは「担当課へ繋ぐだけではない」という意見を聞いていたため、可能な限りコンシェルジュで完結することが理想であると考えており、コンシェルジュで分かるものについては、情報提供等まで行い、解決するものと考えている。</p>
<p>田口委員</p>	<p>今回、震災関連の対応デスクに問い合わせをした際に、そこで説明を受けた情報と、担当課で受けた説明とで内容が異なるという経験をした。長く経験を積んでいけば分かるようになると思うが、初めのうちは研修等を受けても分からない部分もあると思うので、必ず担当課に確認した後に情報提供を行う等の対応を行っていただきたい。</p>

平成28年7月 教育委員会会議録（要旨）【7月15日（金）】

<p>・報告（4） 平成さくら支援学校の概要について</p>	
	<p>《城門特別支援教育室長 報告》</p>
田口委員	<p>冷房は全室に設置されるか。それとも、限られた教室のみ設置されるか。</p>
城門特別支援教育室長	<p>全室に設置される。</p>
出川委員	<p>来年度開校だが、オープンキャンパス等を行うか。</p>
城門特別支援教育室長	<p>7月末に希望する保護者に対して学校説明会を開催する。校舎が完成するのは、その後であるため、初めて校舎に入っただけのは入試の時ということになる。それ以外に学校を開放する機会を設けることは計画していない。</p>
出川委員	<p>必要な保護者に対して十分な周知が行えるのか。</p>
城門特別支援教育室長	<p>昨年度から学校説明会を開催しており、今回が2回目になる。保護者に確実に情報が伝わるように、全ての中学校と特別支援学校の中学部に対してお知らせしているところである。</p>
<p>・報告（5） 広報広聴関係について</p>	
	<p>《緒方教育政策課長 報告》</p>
	<p>[非公開の審議]</p>
<p>日程第3 議 事</p>	
<p>・議第44号 熊本市附属機関設置条例の一部を改正する条例案に対する意見について</p>	
	<p>《緒方教育政策課長 提出理由説明》</p>
	<p>[採決] 【原案どおり承認された】</p>
<p>・議第46号 公の施設の他の団体の利用に関する協定について</p>	
	<p>《高守市立図書館長 提出理由説明》</p>

平成28年7月 教育委員会会議録（要旨）【7月15日（金）】

<p>〔閉会〕 岡教育長</p>	<p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p> <p>本日の日程は全て終了したので、平成28年7月の定例教育委員会会議を閉会する。</p>
----------------------	---